



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題

## 『見て！ 見て！』

副校長 正木 俊行

小学校の担任は、一部を除き、基本的に全教科を受け持っているのですが、教師の専門分野は見えづらいと思いますが、実は多くの教師が、大学では何かの教科を中心に学んでいた場合が多いです。また、現場に出てからは、各学校の状況により、担当する研究部会（必ずしも大学の専攻と同じになるとは限らないし、数年ごとに所属が変わる場合もありますが・・・）に所属するのが普通です。そして自分の担当する教科で、研鑽を積んできた内容を校内や区内や市内に、時には県内に互いに発信し合うことで、授業力や指導力を高めています。

私は、大学も体育学科で現場に出てからもずっと校内でも校外でも、体育研究会に所属していたので、自然と体育学習には力が入ってしまっていました。と言っても年間の体育の授業時間数は決まっていますので、指導内容や方法に拘るしかありません。

そんな私が、体育の授業をしていて嬉しかったことの一つが、授業を通して技能を高められたことを実感した児童から発せられる言葉でした。特に器械運動（跳び箱運動、マット運動、鉄棒運動）は、できた、できないがはっきりするので、技能の向上が自分でもはっきりと認識できるようになるとすぐに

「先生、できた！ 見て！見て！」

と言いに来てくれます。教師をやっていて良かったなと思える瞬間の一つです。

そして、中にはこんなことをいう児童もいました。

「これ、お母さんに見せたいから、今度の授業参観体育にしてほしいな。」

子どもたちのその気持ちには応えてあげたいなといつも思っていました。毎回授業参観を体育にするわけにもいかないで、単元の最後のクラス内での発表会の日程などを保護者の皆様にもお知らせし、ご都合の合う方には来ていただいていた。自分ができるようになったことをお母さんに自慢げに見せる子どもたちは本当にかわいかったです。特に跳び箱運動やマット運動は跳び箱やマットがないとできないので、見せる子どもたちにも見る保護者の方々にも好評でした。

一方、鉄棒運動は、最近鉄棒がある公園が減ってきたとは言え、学校に来ればいつでもあるし、まだ鉄棒が設置してある公園もあるので、そうしたところにお母さんを独自に招いて、自分自慢の発表会をしているようでした。鉄棒の大技ができるようになった何人かのお子さんは、「公園でお母さんに見せたら、びっくりしていた。」ととても満足そうでした。そんな様子を見ていると、子どもたちが自分を一番認めてほしい人は、先生よりも友達よりも、やっぱり親なのかな？ と思えました。

自分自身を振り返ってみると、子どもたちが小さなころはスプーンでご飯を口に運べただけでも、一人で服のボタンが留められただけでも、紙になんだか分からない絵を描いただけでも、「わーっ、すご〜い！」「上手！！」と褒めちぎっていたのに、成長するにつれてだんだん、親からの注文や指示が多くなり、ちょっとやそっとのことでは、褒めなくなってしまっていました。そして、子どもたちもそのうち「見て！見て！」とは、滅多なことでは言わなくなっていったように思います。今思うと、もっと子どもたちに「見て！見て！」と言ってもらえるようにすれば良かったかなとも思います。

この学校便りに皆様が目を通されるのは、HSWの直前でしょうか？ それとも直後でしょうか？ 是非お子さんのがんばりを見取っていただき、声を掛けていただけるとありがたいです。12月には「学びの報告会」も計画しています。ご都合が合いましたら、是非ご参観ください。そして、どんな小さなことでも結構ですので、お子さんの「見て！見て！」光線をしっかりとキャッチしていただき、褒めていただければと思います。我々職員一同も、子どもたちが保護者の皆様にも少しでも「見て！見て！」光線を発射できるように全力で指導に当たります。